

初夏の光を受けて赤く色づき始めたこの果実は ソメイヨシノの若い果実です。春には淡い花で人々を楽しませたソメイヨシノですが 花が散ったあとにはこのような小さな実を結びます。果実は直径 1cm ほどで 見た目は小さなサクランボによく似ています。若いうちは緑色ですが 成熟に向かうにつれて赤色から暗赤色へと変化し やがて黒紫色に近い色になります。写真では まだ完全には熟しきっていない若い段階であり 表面にはみずみずしい光沢が見られます。

ただし 果物として流通している「サクランボ」とは性質が大きく異なります。市場に並ぶサクランボの多くは セイヨウミザクラを改良した品種で 果実が大きく 果肉も厚く 糖分に富んでいます。一方 ソメイヨシノの果実は小型で 果肉が薄く 甘味も少ないため 食用にはほとんど利用されません。見た目は似ていますが セイヨウミザクラが「果実を食べるためのサクラ」であるのに対し ソメイヨシノは「花を楽しむためのサクラ」といえます。

ソメイヨシノの果実は「核果」と呼ばれるタイプで 内部には硬い核と1個の種子があります。しかし ソメイヨシノは人工的に成立した園芸品種であり 全国の木が多くが接ぎ木によって増やされた“クローン”です。そのため 果実ができて中種子が十分成熟しないことも多く 発芽率も高くありません。現在の並木のほとんどは 種子から育ったものではなく 人の手によって受け継がれてきたものです。

背景に見える葉にも サクラ類特有の特徴がよく現れています。葉脈が規則正しく並び 縁には細かな鋸歯があり 長く伸びた葉柄には細かな毛も見られます。花見の季節には華やかな存在であるソメイヨシノですが 初夏にはこのような静かな果実の季節を迎えます。小石川植物園では 春の花だけでなく その後の果実や葉の変化まで観察することで サクラという植物の一年の生活史を身近に感じることができます。

(2026年5月中旬/文京区小石川植物園内)

